2012 年 1 月 23 日
富士通株式会社

ServerView Suite V10.11.05

更新履歴

版数	変更内容	日付
初版	新規作成	2011 年 5 月 24 日
2版	ServerView Installation Manager(SVIM)の留意事項 (25)-(37)追加	2011 年 10 月 21 日
3版	ServerView Update Manager Express の留意事項 (4)-(5)追加	2012 年 1 月 23 日

1. 対象 OS および対象機種

対象 OS	対象機種					
	TX150 S7	RX100 S6	TX300 S6	RX300 S6	RX200 S6	RX600 S5
Windows Server® 2003 R2, Web Edition(SP2)	○	○	○	○	○	×
Windows Server® 2003 R2, Standard Edition(SP2)	○	○	○	○	○	×
Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition(SP2)	○	○	○	○	○	×
Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition(SP2)	○	○	○	○	○	○
Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition(SP2)	○	○	○	○	○	○
Windows® Web Server 2008	○	○	○	○	○	×
Windows Server® 2008 Standard	○	○	○	○	○	○
Windows Server® 2008 Enterprise	○	○	○	○	○	○
Windows Server® 2008 Datacenter	×	×	○	○	○	○
Windows® Small Business Server 2008 Standard	○	○	○	○	×	×
Windows® Small Business Server 2008 Premium	○	○	○	○	×	×
Windows® Web Server 2008 R2(SP1) *2	○	○	○	○	○	○
Windows Server® 2008 R2 Foundation(SP1) *2	×	○	×	×	×	×
Windows Server® 2008 R2 Standard(SP1) *2	○	○	○	○	○	○
Windows Server® 2008 R2 Enterprise(SP1) *2	○	○	○	○	○	○
Windows Server® 2008 R2 Datacenter(SP1) *2	○	×	○	○	○	○
Windows Server® 2008 R2 HPC Edition(SP1) *2	×	×	○	○	○	×
Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86) *1	○	○	○	○	○	×
Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64) *1	○	○	○	○	○	○
Red Hat Enterprise Linux 6 (for x86)	○	○	○	○	○	×
Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64)	○	○	○	○	○	○

*1：SVIM は、RHEL5.5～5.6 をサポート

*2：Windows Server® 2008 R2 SP1 の対応ソフトウェアについては、下記 URL の「サーバ添付ソフトウェア(Windows･･･)」(※pdf ファイル)に対応表がありますのでそちらをご参照ください。

URL：http://primeserver.fujitsu.com/primergy/software/windows/support/2008-r2-sp1/

対象 OS	対象機種	
	TX100 S2	TX200 S6
Windows Server® 2003 R2, Web Edition(SP2)	○	○
Windows Server® 2003 R2, Standard Edition(SP2)	○	○
Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition(SP2)	○	○
Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition(SP2)	○	○
Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition(SP2)	○	○
Windows® Web Server 2008	○	○
Windows Server® 2008 Standard	○	○
Windows Server® 2008 Enterprise	○*1	○
Windows Server® 2008 Datacenter	○	×
Windows® Small Business Server 2008 Standard	○	○
Windows® Small Business Server 2008 Premium	○	○
Windows® Web Server 2008 R2(SP1)　*3	○	○
Windows Server® 2008 R2 Foundation(SP1)　*3	○	×
Windows Server® 2008 R2 Standard(SP1)　*3	○	○
Windows Server® 2008 R2 Enterprise(SP1)　*3	○	○
Windows Server® 2008 R2 Datacenter(SP1)　*3	○	○
Windows Server® 2008 R2 HPC Edition(SP1)　*3	×	×
Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86) *2	○	○
Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64) *2	○	○
Red Hat Enterprise Linux 6 (for x86)	○	○
Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64)	○	○

*1：64bit のみ

*2：SVIM は、RHEL5.5～5.6 をサポート

*3：Windows Server® 2008 R2 SP1 の対応ソフトウェアについては、下記 URL の「サーバ添付ソフトウェア(Windows･･･)」(※pdf ファイル)に対応表がありますのでそちらをご参照ください。

URL：http://primeserver.fujitsu.com/primergy/software/windows/support/2008-r2-sp1/

対象 OS	対象機種					
	BX620 S6	BX920 S1	BX920 S2	BX922 S2	BX924 S2	BX960 S1
Windows Serve®r 2003 R2, Web Edition(SP2)	○	○	○	○	○	×
Windows Server® 2003 R2, Standard Edition(SP2)	○	○	○	○	○	×
Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition(SP2)	○	○	○	○	○	×
Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition(SP2)	○	○	○	○	○	○
Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition(SP2)	○	○	○	○	○	○
Windows® Web Server 2008	○	×	○	○	○	×
Windows Server® 2008 Standard	○	○	○	○	○	○*1
Windows Server® 2008 Enterprise	○	○	○	○	○	○*1
Windows Server® 2008 Datacenter	×	×	○*2	○	○*1	○*1
Windows® Small Business Server 2008 Standard	×	×	×	×	×	×
Windows® Small Business Server 2008 Premium	×	×	×	×	×	×
Windows® Web Server 2008 R2(SP1)　*4	○	○	○	○	○	×
Windows Server® 2008 R2 Foundation(SP1)　*4	×	×	×	×	×	×
Windows Server® 2008 R2 Standard(SP1)　*4	○	○	○	○	○	○
Windows Server® 2008 R2 Enterprise(SP1)　*4	○	○	○	○	○	○
Windows Server® 2008 R2 Datacenter(SP1)　*4	○	○	○	○	○	○
Windows Server® 2008 R2 HPC Edition(SP1)	×	×	×	○	○	×
Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for EM64T)	×	○*2	×	×	×	×
Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for EM64T)	×	○*2	×	×	×	×
Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for x86)	×	○*2	×	×	×	×
Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for x86)	×	○*2	×	×	×	×
Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86)　*3	○	○	○	○	○	×
Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)　*3	○	○	○	○	○	○
Red Hat Enterprise Linux 6 (for x86)	○	×	○	○	○	×
Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64)	○	×	○	○	○	○

*1：64bit のみ

*2：SVIM は未サポート

*3：SVIM は、RHEL5.5～5.6 をサポート

*4：Windows Server® 2008 R2 SP1 の対応ソフトウェアについては、下記 URL の「サーバ添付ソフトウェア(Windows･･･)」(※pdf ファイル)に対応表がありますのでそちらをご参照ください。

URL：http://primeserver.fujitsu.com/primergy/software/windows/support/2008-r2-sp1/

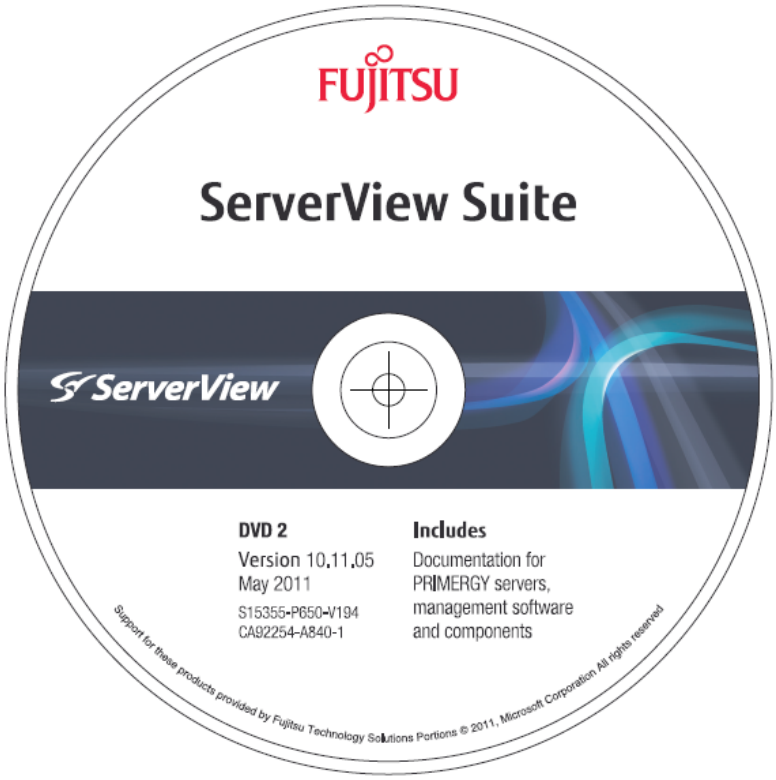
2. 格納ソフトウェア

	Windows	Linux
ServerView Agents	V5.10.04	V5.10-14
ServerView Update Agent	V5.10.02	V5.10.01
ServerView Operations Manager/Update Manager	V5.10.06	V5.10.06
ServerView Update Manager Express	V5.10.21	V5.10.21
ServerView RAID Manager	V5.2.6	V5.2.6
DSNAP	V3.0L50	-
ソフトウェアサポートガイド	V2.0L50	-
HRM / server	6.2.0	6.2.0
富士通 Linux サポートパッケージ	-	1.2-0
ServerView Installation Manager	V10.11.05	V10.11.05
ServerView Deployment Manager	V5.40 SP1	―
ServerView Virtual-IO Manager	V2.4.05	―
Scripting Toolkit	未サポート	未サポート

3. 媒体

DVD1：添付ソフトウェア／ドライバ

DVD2：マニュアル



4. 留意事項

■ServerView Operations Manager の留意事項

■ServerView Agents の留意事項

■ServerView Installation Manager(SVIM)の留意事項

■ServerView Update Manager Express の留意事項

■ServerView Deployment Manager (SVDM) の留意事項

■ServerView Virtual-IO Manager(VIOM)の留意事項

■リモートマネジメントコントローラ(iRMC)の留意事項

■ServerView RAID Manager の留意事項

■PrimeCollect の留意事項

■Scripting Toolkit の留意事項

■ServerView Operations Manager の留意事項

(1) V4.81 以前の ServerView Agents がインストールされている環境へのインストール

V4.81 以前の ServerView Agents がインストールされている環境に本 DVD に格納されている ServerView Operations Manager をインストールすることはできません。ServerView Operations Manager をインストールする場合は、事前に ServerView Agents を V4.91 以降(推奨:V5.00 以降)にアップデートしてください。

(2) ServerView Operations Manager クイック導入ガイド

本 DVD に格納されている ServerView Operations Manager を Windows 上で使用するための、基本的な設定をまとめた「ServerView Operations Manager クイック導入ガイド」が、以下のフォルダに格納されています。

<DVD ドライブ>:¥SVSLocalTools¥Japanese¥Svmanage¥Manual

ServerView Operations Manager のインストール前及びインストール時の参考資料として参照ください。尚このガイドは、Windows 環境にデフォルト設定でのインストールを行うことを前提に説明されています。Linux 環境にインストールする場合や、任意で設定の変更を行う場合など、その他詳細な情報につきましては、ServerView Suite DVD ディスク 2 に格納されているマニュアルを参照願います。

(3) SQL Server の最大メモリ使用量

ServerView Operations Manager for Windows に同梱されている SQL Server の最大メモリ使用量のパラメータ(max server memory)は 2147483647MB に設定されています。この設定値を変更する場合は以下の手順で変更してください。

1. SVS DVD の以下のフォルダに格納されているバッチファイルを、任意のフォルダへコピーします。
   <DVD ドライブ>¥SVSLocalTools¥Japanese¥Svmanage¥Tools¥SQLMaxMemSize
   バッチファイル名:SVConfigSQLMaxMemSize.bat
2. コマンドプロンプトを起動します。
3. 1 でバッチファイルを保存したフォルダに移動します。
4. 次のコマンドを実行します。
   SVConfigSQLMaxMemSize.bat [/SVSETUP]
   ※/SVSETUP を指定した場合、サイズは 64MB に設定されます。
   何も指定しない場合、対話モードとなり、任意に値を指定できます。

(4) アップデートインストール

V5.00 以降のバージョンの ServerView Operations Manager から、本 DVD に格納されている V5.10.06 へアップデートインストールを行うことはできません。V5.00 以降のバージョンからアップデートを行う場合は、弊社ダウンロードページから V5.10.06 より新しいバージョンを入手し、そちらへアップデートしてください。
http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/

バージョン V4.92.14 から、本 DVD に格納されている V5.10.06 へアップデートインストールを行うことは可能です。

V4.92.14 より前のバージョンから、V5.00 以降へのアップデートを行うことはできません。V4.92.14 より前のバージョンからアップデートを行う場合は、設定情報を控えて一旦アンインストールした後に本 DVD に格納されている ServerView Operations Manager、もしくは弊社ダウンロードページから入手した最新版をインストールし、再度手動で設定を行うか、もしくは一旦 V4.92.14 にアップデートしてから、本 DVD に格納されている ServerView Operations Manager にアップデートインストールを行ってください。

- V4.92.14 より前 → V5.10.06 を含む V5.00 以降のバージョン : ×アップデートインストールはできません。
- V4.92.14 → V5.10.06 を含む V5.00 以降のバージョン : ○アップデートインストールできます。
- V5.00 もしくは V5.01 → V5.10.06 : ×アップデートインストールはできません。
- V5.00 もしくは V5.01 → V5.10.06 より新しいバージョン : ○アップデートインストールできます。

※本 DVD に格納されているバージョンは、V5.10.06 です。

(5) クライアント OS へのインストール

本 DVD に格納されているバージョンの ServerView Operations Manager は、Windows XP や Windows Vista などのクライアント OS にインストールすることはできません。

(6) ServerView Operations Manager が使用する Web サーバ

本 DVD に格納されているバージョンの ServerView Operations Manager をインストールすると、「ServerView JBoss Application Server」という名前のサービスがインストールされます。

Windows 環境の場合、バージョン V4.92 までの ServerView Operations Manager / Console では、Apache ベースの Web サーバがインストールされていましたが、それに代わって V5.00 以降では ServerView JBoss Application Server サービスが Web サービスを提供します。

V4.92 までの ServerView Operations Manager / Console では、インストールする環境で既に Apache やインターネットインフォメーションサービス(IIS)が動作していた場合に、ServerView Operations Manager / Console に同梱している Apache ベースの Web サーバをインストールせずに既存の Apache や IIS を利用することができましたが、V5.00 以降ではそれらを利用することはできません。尚、ServerView JBoss Application Server とV5.00 以降の ServerView Operations Manager は、Apache や IIS が動作している環境にもインストール(共存)して動作することが可能です。

Linux 環境の場合、V4.92 までの ServerView Operations Manager では、OS 標準の http サービス(Apache)を利用して ServerView Operations Manager が動作していましたが、V5.00 以降では、Windows と同様に ServerView JBoss Application Server サービスが Web サービスを提供します。尚、ServerView JBoss Application Server とV5.00 以降の ServerView Operations Manager は、http サービス(Apache)が動作している環境にもインストール(共存)して動作することが可能です。

(7) ServerView Operations Manager が使用するディレクトリサービス

本 DVD に格納されているバージョンの ServerView Operations Manager ではログインユーザ認証の為に、ディレクトリサービスを使用します。ServerView Operations Manager をインストールするサーバに既存のディレクトリサービスがなかった場合には、「ServerView JBoss Application Server」サービス(ServerView Operations Manager と同時にインストールされる)内のディレクトリサービス機能が有効になります。
ServerView Operations Managerをインストールするサーバからネットワークで接続可能なサーバに、Active Directory が存在していた場合、既存の Active Directory を使用するように設定することが可能です。
また、ServerView Operations Manager をインストールした後に、Active Directory をインストールすることは推奨されません。ServerView Operations Manager をインストールするサーバに、Active Directory をインストールする場合には、先に Active Directory をインストールした後に、ServerView Operations Manager をインストールしてください。

(8) メモリ使用量

本 DVD に格納されているバージョンの ServerView Operations Manager は、デフォルトインストール後の状態で、約 900MB のメモリを使用します。これまでのバージョンでの使用量に対して、300MB 程度使用量が増えています。

本 DVD に格納されているバージョンの ServerView Operations Manager をインストールするサーバのハードウェア構成について、推奨値は以下の通りです:

・推奨値

PRIMERGY サーバ
プロセッサ:2CPU もしくは 2 コア以上
メモリ:4GB 以上
空きディスク容量:100 GB 以上
ディスプレイ:1280x1024
LAN:100MBit-LAN

(9) Microsoft Internet Explorer のサポートバージョン

Microsoft Internet Explorer を使って、ServerView Operations Manager にアクセスする場合には、バージョン 7 及び 8 をお使いください。
Microsoft Internet Explorer のバージョン 6 やそれ以前のバージョンを使って、本 DVD に格納されているバージョンの ServerView Operations Manager にアクセスすることはできません(非サポート)。
また同様に、Microsoft Internet Explorer のバージョン 9 を使って、本 DVD に格納されているバージョンの ServerView Operations Manager にアクセスすることはできません。

現在 Microsoft Internet Explorer のバージョン 6 以前をお使いで、バージョン 7 もしくは 8 にアップデートする場合、Windows Update などを使ってアップデート行ってください。本 DVD には Microsoft Internet Explorer のアップデートモジュールは格納されていません。

(10) ホスト名の制限

ホスト名(ネットワーク上のコンピュータ名) 及び DNS サフィックスに、アンダースコア("_")が含まれているサーバに、本 DVD に格納されているバージョンの ServerView Operations Manager をインストールして使用することはできません。ホスト名及び DNS サフィックスにアンダースコアが含まれていない別のサーバにインストールするか、もしくはホスト名及び DNS サフィックスを変更してください。

(11) 名前解決の設定

本 DVD に格納されているバージョンの ServerView Operations Manager にブラウザからアクセスする際に、ServerView Operations Manager がインストールされたサーバのホスト名(ネットワーク上のコンピュータ名)を名前解決できるように設定されている必要があります。DNS サーバの設定や、もしくは端末側の hosts ファイルにサーバのホスト名と IP アドレスを追加するなどして、ホスト名を名前解決できるように設定してください。
ServerView Operations Manager をインストールしたサーバにおいても、ServerView Operations Manager にブラウザでアクセスする場合には、自分自身のホスト名が名前解決できるように設定されている必要があります。

(12) JRE をアップデートする際の留意

Windows 環境において本 DVD に格納されているバージョンの ServerView Operations Manager がインストールされた状態で、JRE(Java Runtime Environment)をアップデートする場合、ServerView Operations Manager の以下のサービスを停止してから、JRE のアップデートを行ってください。

以下に記載の順番に、サービスを停止してください:
1. ServerView Download Service
2. ServerView Services
3. ServerView JBoss Application Server 5.1

JRE をアップデートした後、以下の通り、停止したのと逆の順番でサービスを開始してください:
1. ServerView JBoss Application Server 5.1
2. ServerView Services
3. ServerView Download Service

上記の操作を行わないと、JRE のアップデートに失敗します。上記の操作を行わずに、JRE のアップデートに失敗した後に、再度アップデートを実行するには、システムの再起動が必要です。

(13) JRE の設定

JRE(Java Runtime Environment)がバージョン 6 アップデート 19 以降の場合、Java コントロールパネルにて、「次世代の Java Plug-in を有効にする」にチェックを入れてください。
ServerView Operations Manager V4.92 では、この項目のチェックをはずす必要がありましたが、本 DVD に格納されてい

るバージョンの ServerView Operations Manager ではチェックを入れてください。
この項目は、デフォルトではチェックが入っています。以下の方法で確認します。

(1) コントロールパネルから、Java コントロールパネルを開きます。
(2) 「詳細」タブを選択します。
(3) 「設定」-「Java Plug-in」を開きます。
(4) 「次世代の Java Plug-in を有効にする」にチェックが入っていることを確認します。

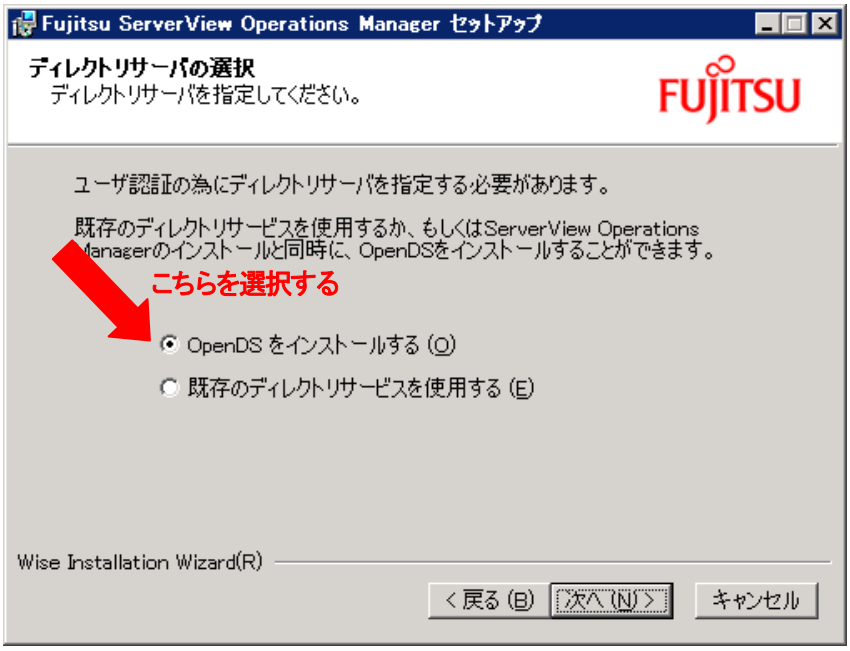
(14) 他プログラムとの連携ツール

本 DVD 内の下記のフォルダに、Systemwalker や信号灯と連携するツールなどが格納されています。必要に応じて適宜ご活用ください。各ツールの詳細は、ツールごとのフォルダに格納されている Readme.txt をご覧ください。
格納フォルダ：
<DVD ドライブ>¥SVSLocalTools¥Japanese¥Svmanage¥Tools
ツール(カッコ内は格納フォルダ名)：
・Systemwalker 連携用ファイル (SystemWalker)
・信号灯制御プログラム連携ツール (PHN_3FB)
・ServerView トラップ転送プログラム for Linux (TrapServer)
・firewall 設定ツール for VMware (VMware)
・SQL Server 最大メモリ使用量設定ツール (SQLMaxMemSize)

(15) IP アドレスやホスト名、DNS サフィックスを変更した場合の操作

本 DVD に格納されているバージョンの ServerView Operations Manager をインストールしたサーバの IP アドレスやホスト名、DNS サフィックスを変更した場合、以下を実行する必要があります。

Windows 環境の場合、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」(Windows 2003 の場合)もしくは「プログラムと機能」(Windows 2008 の場合)で、「Fujitsu ServerView Operations Manager」を選択して、「変更」ボタンをクリックします。修正インストールのダイアログが表示されますので、メッセージに従って操作を行います。
尚、ServerView Operations Manager が使用するディレクトリサービスとして、ServerView Operations Manager に同梱の OpenDS(デフォルト)を使用していた場合、修正インストールの「ディレクトリサーバの選択」ダイアログでは、「OpenDS をインストールする」を再度選択してください。使用するディレクトリサービスを変更する場合にのみ「既存のディレクトリサービスを使用する」を選択してください。



Linux 環境の場合、以下のコマンドを実行します：
/opt/fujitsu/ServerViewSuite/svom/ServerView/Tools/ChangeComputerDetails.sh

変更後の設定を確認するメッセージが表示されます。メッセージに従って入力を行ってください。

(16) アップデートマネージャ対象機種

ServerView Operations Manager のアップデートマネージャ機能によりアップデートが実施可能なモデルは以下です。

- TX100 S2 / TX150 S7 / TX200 S6 / TX300 S6
- RX100 S6 / RX200 S6 / RX300 S6 / RX600 S5
- BX922 S2 / BX920 S2 / BX960 S1 / BX924 S2 / BX620 S6
  (但し、マネジメントブレードファームウェアのアップデートはサポート対象外です)

(17) ターミナルサービスやリモートデスクトップサービスがインストールされた環境へのインストール

Windows のターミナルサービス(TS)、及びリモートデスクトップサービス(RDS)がインストールされている場合、ServerView Operations Manager は以下の方法でインストールしてください。

1. コマンドプロンプトを開きます。
2. 次のように入力します。
   Change user /install
3. SVS DVD 内の"serverview.EXE"が入っているフォルダに移動します。
   cd <DVD ドライブ>:¥SVSSoftware¥Software¥ServerView¥Windows¥ServerView_S2
4. "serverview.EXE" を実行して、Operations Manager をインストールします。
5. インストールが完了したら、次のように入力します。
   Change user /execute

(18) Red Hat Enterprise Linux 6 に ServerView Operations Manager をインストールして使用する場合の注意

Red Hat Enterprise Linux 6 上のブラウザで日本語版 ServerView Operations Manager の画面を表示することができません。本バージョンの ServerView Operations Manager は、Red Hat Enterprise Linux 6 にインストールすることは可能ですが、ServerView Operations Manager を参照するには、別の端末のブラウザから参照してください。

■ServerView Agents の留意事項

Windows 環境

(1) V4.81 以前の ServerView Operations Manager がインストールされている環境へのインストール

V4.81 以前の ServerView Operations Manager がインストールされている環境に 本 DVD に格納されている ServerView Agents をインストールすることはできません。ServerView Agents をインストールする場合は、事前に ServerView Operations Manager を V4.91 以降(推奨:V5.10)にアップデートしてください。

(2) ServerView Operations Manager から診断情報収集(PrimeCollect)およびオンライン診断を実行する際の留意

ServerView V5.00 以降では役割ベースのアクセス制御サポートにより、セキュリティの強化が行なわれました。
このため、ServerView Agents V5.00 以降がインストールされたサーバに対して、V4.92 以前の ServerView Operations Manager から診断情報収集(PrimeCollect)およびオンライン診断を実行することができません。これらの機能をお使いになる場合は、ServerView Operations Manager V5.00 以降をご使用ください。

ServerView Operations Manager V4.92 以前をご使用の場合でも、該当サーバの OS 上からは診断情報収集(PrimeCollect)を実行する事ができます。

(3) ServerView Agents がインストールされた環境で Citrix XenDesktop を使用する際の留意

ServerView Agent for Windows と Citrix XenDesktop が同じサーバへインストールされていた場合、Citrix XenDesktop は起動することができません。
ServerView Agent for Windows をインストール後、以下の Microsoft の KB を適用する事により、Citrix XenDesktop が起

動できるようになります。
http://support.microsoft.com/kb/899965

Linux/VMware 環境

(1) V4.81 以前の ServerView Operations Manager がインストールされている環境へのインストール

V4.81 以前の ServerView Operations Manager がインストールされている環境に 本 DVD に格納されている ServerView Agents をインストールすることはできません。ServerView Agents をインストールする場合は、事前に ServerView Operations Manager を V4.91 以降(推奨:V5.10)にアップデートしてください。

(2) インストールスクリプトによる snmpd.conf の自動編集

日本語 OS 環境において、インストールスクリプト(srvmagtDVD.sh、srvmagt.sh)を使用して初めてインストールする時、インストールスクリプトが自動的に snmpd.conf を編集し、/etc/snmp/snmpd.conf_svsave ファイルを作成します。
/etc/snmp/snmpd.conf_svsave ファイルが存在していると、次回以降は自動的に snmpd.conf は編集されません。
初回インストール時、snmpd.conf を自動的に編集する必要がない場合は、予め以下のコマンドにより、/etc/snmp/snmpd.conf_svsave ファイルを作成しておいてください。

```
# cp /etc/snmp/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf_svsave
```

(3) IPMI ドライバの設定

ServerView Agents はデフォルト設定では、OS 標準の IPMI ドライバを使用しますが、RHEL 5 において PRIMECLUSTER を使用する場合は、ServerView Agents 同梱の IPMI ドライバを使用する必要があります。必ず以下の設定を行ってください。
また、PRIMECLUSTER を使用しない場合も、RHEL 5.5 以前においては、OS 標準の IPMI ドライバを使用していると、不定期に短時間の間 CPU 使用率が上昇する事象が発生します。ServerView Agents 同梱の IPMI ドライバを使用するように設定することで、本事象を抑止することが可能です。

1. ServerView Agents V5.10 をインストール後、ServerView Agents を停止する。
   ```
   # srvmagt stop
   ```
2. OS 標準 IPMI ドライバを停止する。
   ```
   # /etc/init.d/ipmi stop
   ```
3. OS 標準 IPMI ドライバの起動設定を無効にする。
   ```
   # /sbin/chkconfig ipmi off
   ```
4. /etc/srvmagt/config を以下のとおり編集する。
   ＜編集前＞
   LoadNativeIPMIDriver=1
   ＜編集後＞
   LoadNativeIPMIDriver=0
5. ServerView Agents を起動する。
   ```
   # srvmagt start
   ```

(4) VMware の firewall 設定

VMware ESX において、ServerView Agents を使用する場合、VMware ESX の firewall の設定を行なう必要があります。
SVS DVD の以下のフォルダに格納されている、「vmcfg.txt」を参照して設定を行なってください。
<DVD ドライブ>¥SVSLocalTools¥Japanese¥Svmanage¥Tools¥VMware

(5) ServerView Operations Manager から診断情報収集(PrimeCollect)を実行する際の留意

ServerView V5.00 以降では役割ベースのアクセス制御サポートにより、セキュリティの強化が行なわれました。
このため、ServerView Agents V5.00 以降がインストールされたサーバに対して、V4.92 以前の ServerView Operations Manager から診断情報収集(PrimeCollect)を実行することができません。これらの機能をお使いになる場合は、ServerView Operations Manager V5.00 以降をご使用ください。

ServerView Operations Manager V4.92 以前をご使用の場合でも、該当サーバの OS 上からは診断情報収集(PrimeCollect)を実行する事ができます。

(6) 必須パッケージ

ServerView Agents for Linux は、Red Hat Enterprise Linux (for Intel64)において、以下の 32 ビット版パッケージが必要です。
32 ビット版パッケージは、Red Hat Enterprise Linux (for Intel64)のインストール DVD の中にあります。
ServerView Agents for Linux をインストールする前に、必ずインストールしてください。

- openssl-<バージョン>.<i686 / i386>.rpm
- compat-libstdc++-33-<バージョン>.<i686 / i386>.rpm
- pam-<バージョン>.<i686 / i386>.rpm

(7) マニュアルの正誤

ServerView Suite DVD ディスク 2 に格納されている、以下のマニュアルの記載に誤りがあります。

マニュアル名：sv-install-linux-agent-jp.pdf
ページ：51

「3.5.2 エージェントの設定」の項に、ServerView Agents の動作パラメータとして以下のパラメータについての記載がありますが、本 DVD に格納されている ServerView Agents においては、未使用のパラメータです。値を変更しても、設定は反映されません。

ThresholdMonitoringEnable ここで 0 以外の値を指定すると、しきい値監視が有効になります。監視するということは、たとえば CPU の負荷が特定のしきい値を超えた場合などに SNMP トラップが送信されることを意味します。 しきい値監視は、ServerView Operations Manager を使用して有効 /無効にすることもできます。しきい値監視は、現在デフォルトで無効になっています。

(8) ブレードサーバの診断情報収集(PrimeCollect)を実行する際の留意

ブレードサーバの診断情報収集(PrimeCollect)を実行すると、アーカイブ取得処理によりマネジメントブレード(MMB)に対して、SNMP コミュニティ「public」を使用した SNMP 通信が行なわれます。
このとき、マネジメントブレードで SNMP コミュニティ「public」による SNMP 通信が許可されていない場合、マネジメントブレードに SNMP 通信の認証エラーが記録されます。
この場合、認証エラーを無視するか、マネジメントブレードで SNMP コミュニティ「public」による SNMP 通信を許可する設定を行なってください。

■ServerView Installation Manager(SVIM)の留意事項

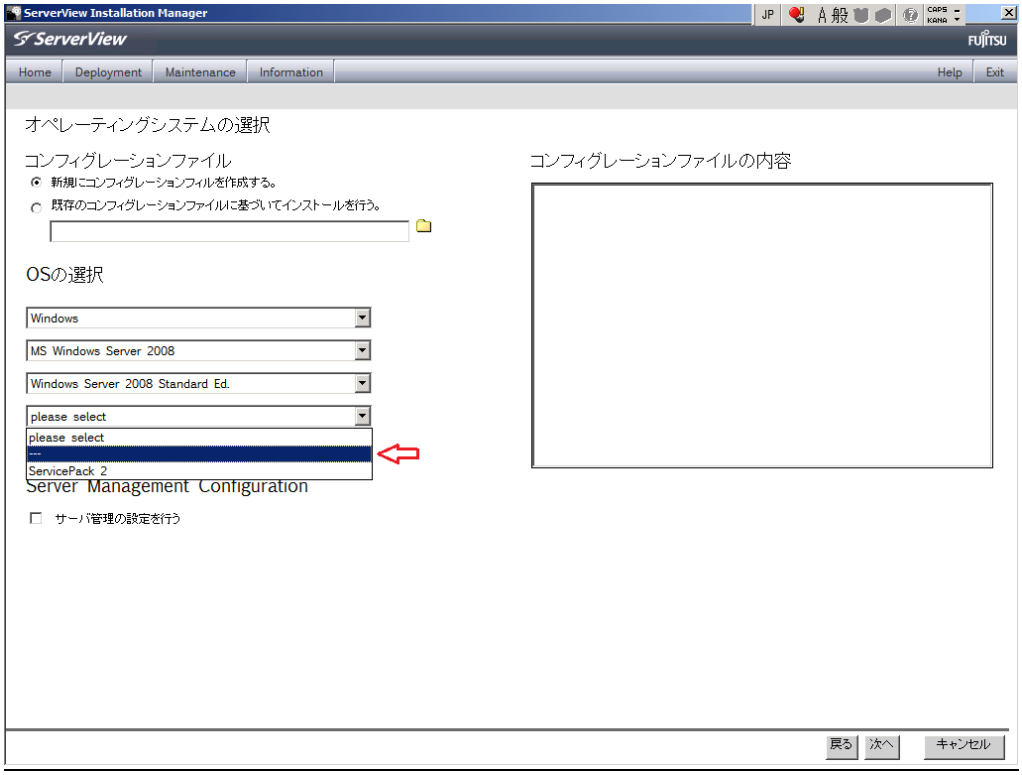
(1) SVIM を使用した Windows Server 2008 Service Pack 適用済み環境の構築について

SVIM を使用して、Windows Server 2008 Service Pack のインストールを行うことはできません。
Windows Server 2008 Service Pack 未適用の OS メディアをご使用の場合、
SVIM での Windows Server 2008 インストール完了後、手動で Service Pack をインストールしてください。

Windows Server 2008 Service Pack 適用済みの OS メディアをご使用の場合は、
SVIM で Windows Server 2008 インストールを行うことにより、
Windows Server 2008 Service Pack 適用済み環境を構築することができます。

(2) サービスパックなしの Windows OS メディアを使用してインストールする場合、サービスパックは[- - -]を選択してください。

サービスパックなしの Windows OS メディア(RTM 版、サーバ添付のインストールディスク)を使用してインストールする場合、
サービスパックは[- - -]を選択してください。



(3) プロダクトキーの再入力画面が表示された場合、再度プロダクトキーを入力してください

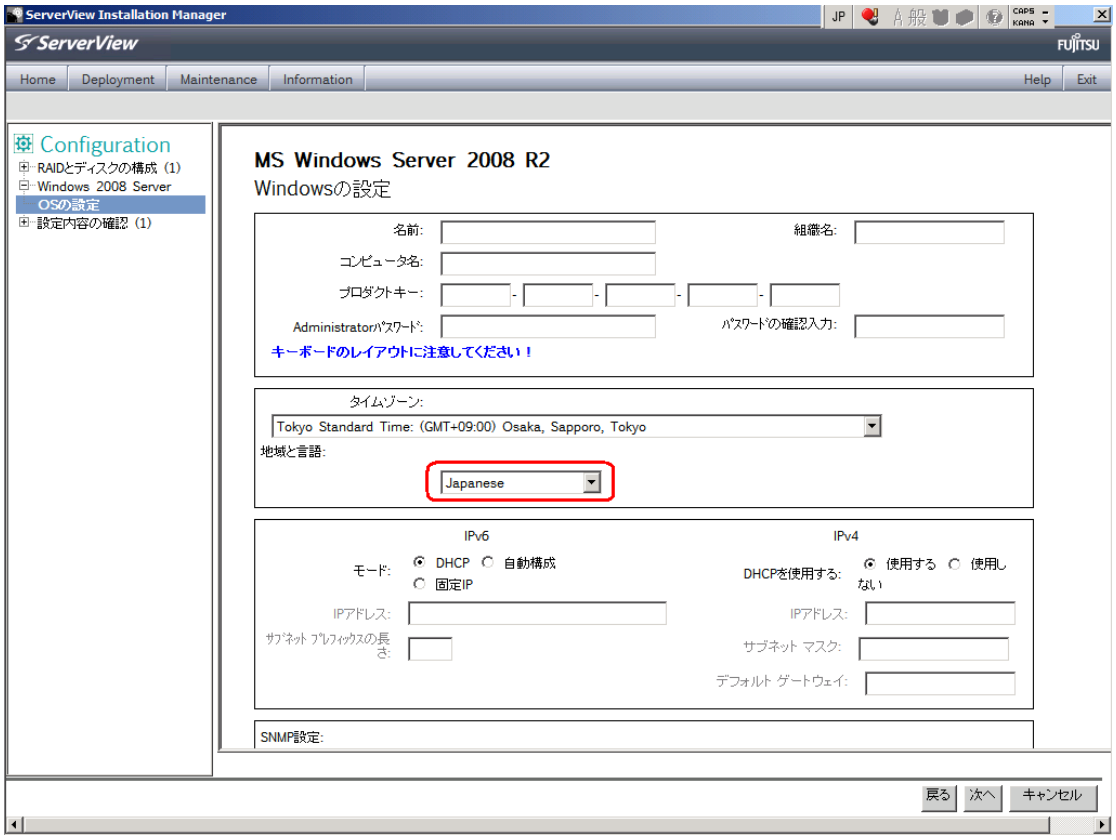
Microsoft メディアを使用する場合、OS インストール中にプロダクトキーの再入力を求められる場合があります。
入力画面が表示された場合、再度プロダクトキーを入力してください。

(4) 「Operating System - Recovery DVD　Windows Server 2008 R2」を使用したインストールについて

「Operating System - Recovery DVD Windows Server 2008 R2」を使用してインストールを行う場合、下記項目を選択しインストールを行ってください。
この設定を行わなかった場合、SVIM でインストール完了後、一部のアプリケーションで文字化けが発生する可能性があります。

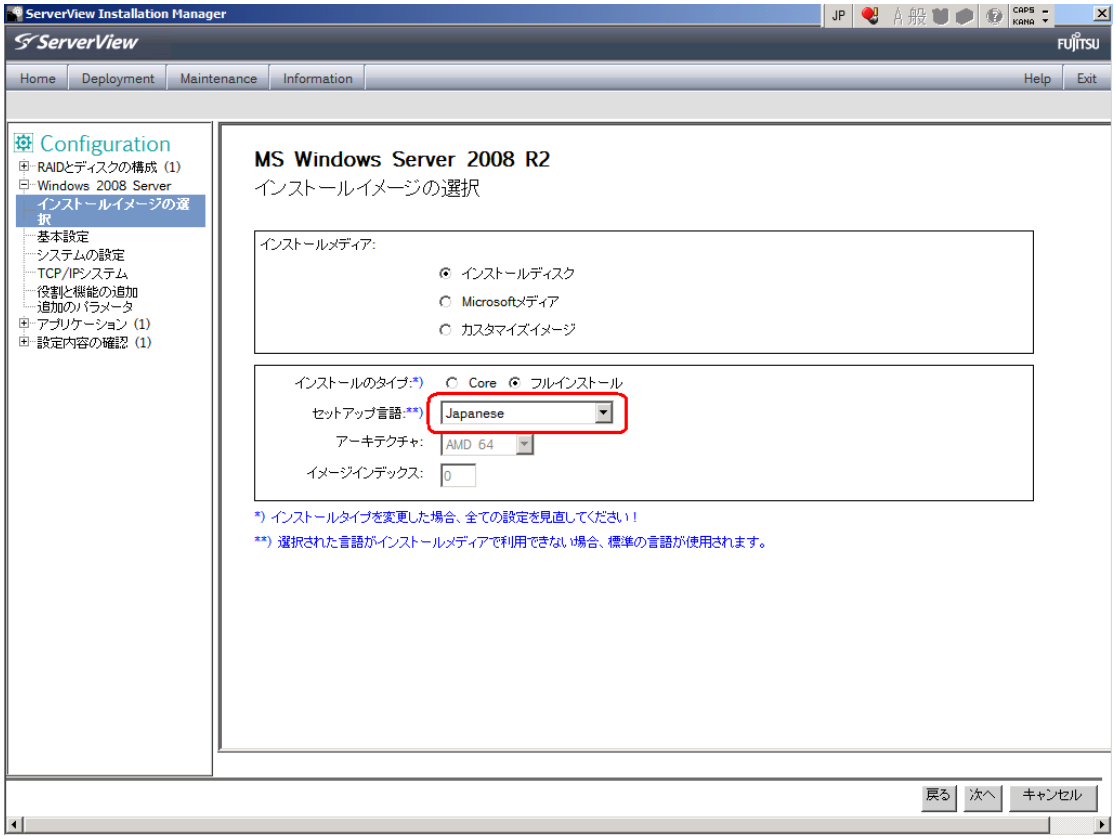
クイックモード:

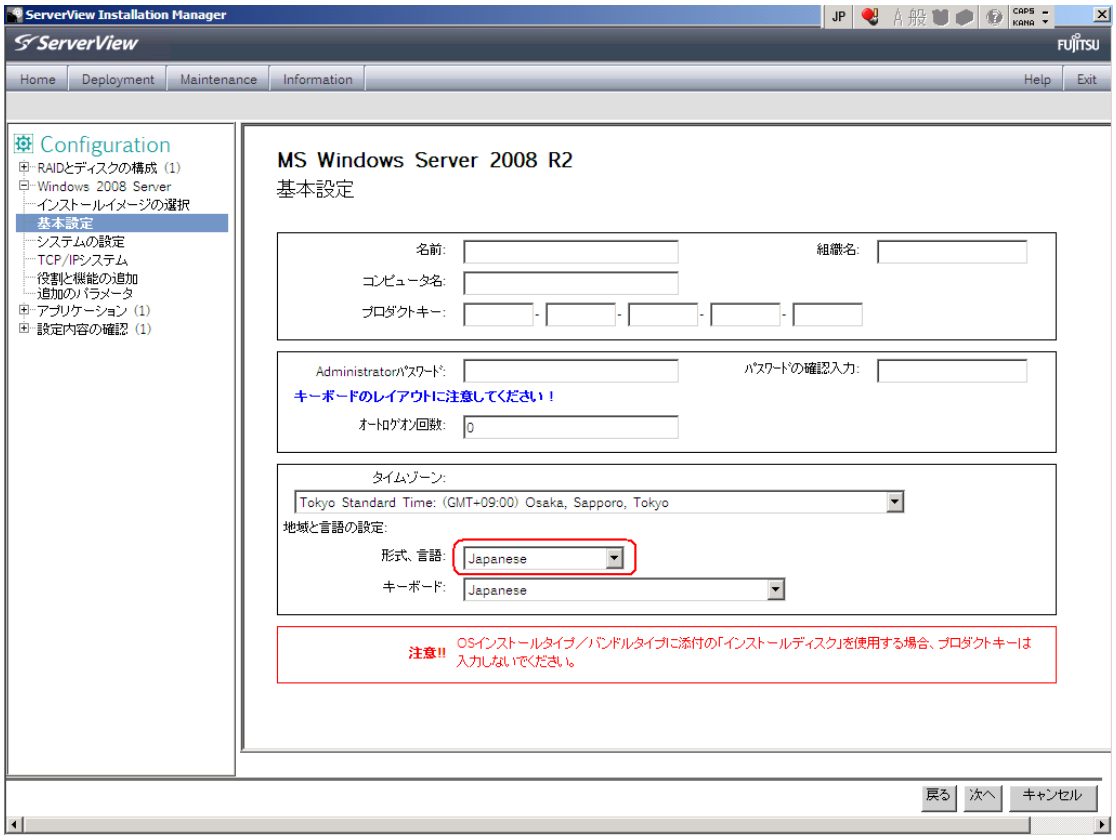
- 「OS の設定」画面の「地域と言語」で「Japanese」を選択してください。



ガイドモード:

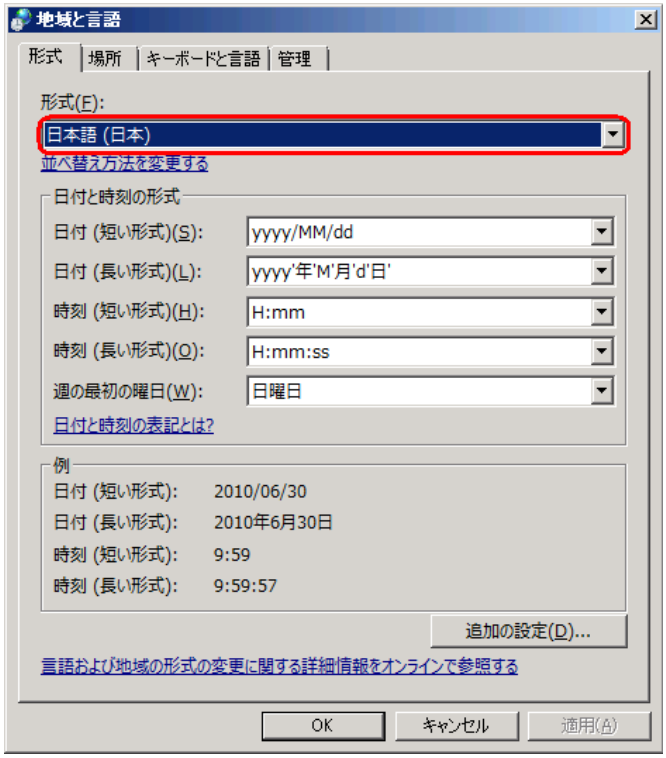
- 「インストールイメージの選択」画面の「セットアップ言語」、および、「基本設定」画面の「形式、言語」で「Japanese」を選択してください。





インストール完了後、文字化けが発生した場合には、下記手順を行い、問題を解消することができます。

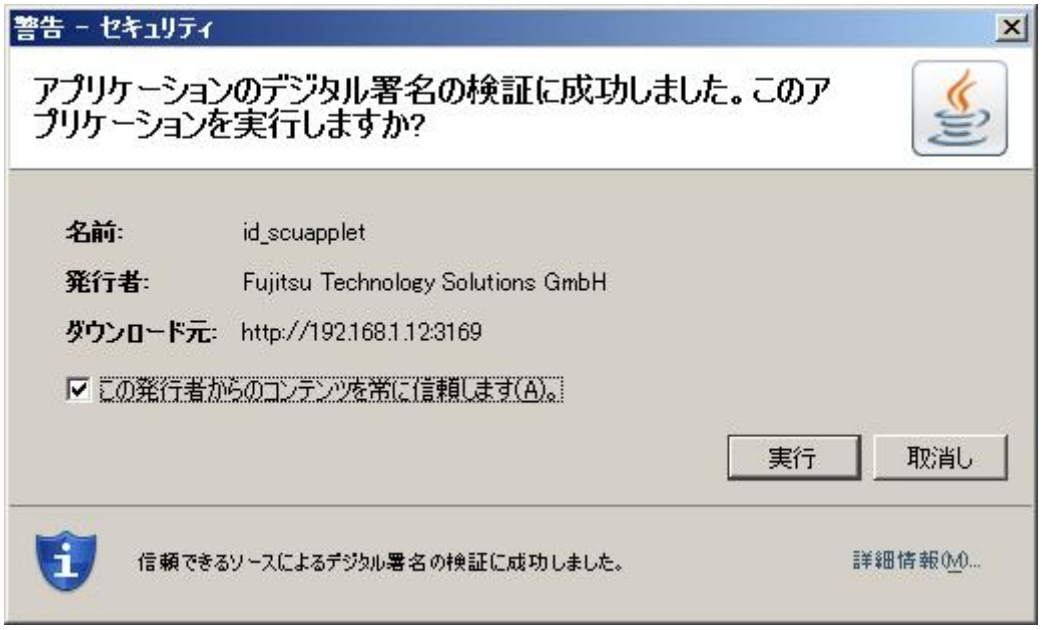
1. 「スタート」-「コントロールパネル」をクリックします。
2. 「コントロールパネル」に表示されている「時計、言語、および地域」の「表示言語の変更」をクリックします。
3. 「地域と言語」ウィンドウの「形式」タブをクリックします。
4. 「形式」を選択し、一度日本語以外の言語を選択した後、「日本語（日本）」に再設定します。

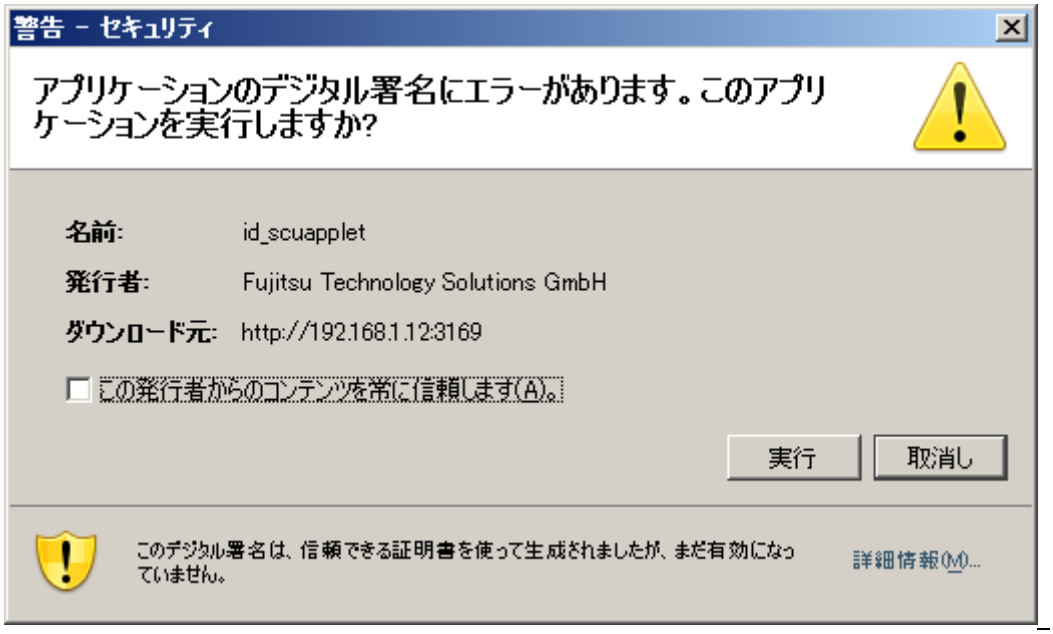


(5) Server Configuration Manager 起動時の警告メッセージについて

リモートインストールにおいて、Server Configuration Manager を起動し設定をおこなう場合は、下記のような

デジタル署名に関する警告メッセージが表示される場合があります。
警告メッセージが表示された場合は、「この発行者からのコンテンツを常に信頼します。」にチェックを入れて、「実行」を選択してください。





(6) マルチパス環境における留意事項

本ソフトウェアはマルチパス構成が設定済みの環境での動作をサポートしていません。
マルチパス構成が設定済みの環境では、本ソフトウェアは使用しないでください。
本ソフトウェア使用時は、マルチパス接続しているケーブルを全て外した状態で ServerView Suite DVD で DVD 起　動、または、PXE 起動してください。
外部ストレージ(SAS/FC)に、OS のインストールを行う場合は、マルチパス接続構成のいずれか一つのパスのみを接続した状態にし、それ以外のケーブルは抜いてインストールしてください。
OS インストール完了後、マルチパス構成に戻すには、マルチパスドライバがインストールされた状態にした後、サーバの電源を切った状態で、ケーブルを接続しマルチパス構成に戻してください。

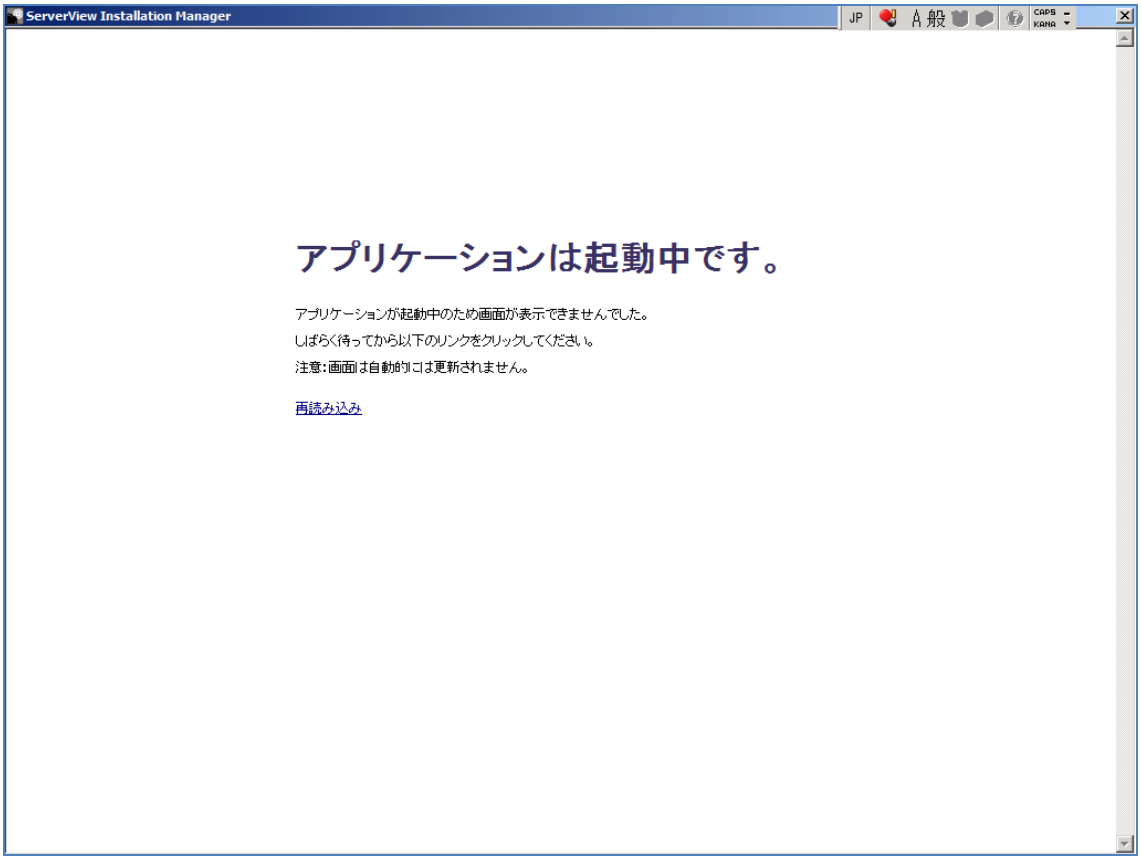
マルチパス接続しているケーブルに関する詳細な手順につきましては、FC カード等のマルチパス環境をサポートしたデバイスの取扱説明書を参照願います。

(7) 英語環境のセットアップについて

SVIM を使用して、日本語以外の言語についてのインストールはサポートしていません。
英語環境が必要な場合には、弊社営業もしくは SE にご相談ください。

(8) ServerView Installation Manager 起動中に表示されるメッセージについて

SVIM を起動中に下記メッセージが表示される場合があります。
メッセージが表示された場合は「再読み込み」をクリックし処理を続行してください。



(9) Red Hat Enterprise Linux 5.5 環境の構築における留意事項

SVIM を使用して Red Hat Enterprise Linux 5.5 環境を構築する場合、OS インストール後に以下のページから
ダウンロードした OS 修正パッケージを適用することを強く推奨します。
http://rhn.redhat.com/errata/RHBA-2010-0759.html
OS 修正パッケージのダウンロード・適用方法については、お客様のサポート契約形態に合わせて
以下のドキュメントを参照ください。

[SupportDesk 契約済みの場合]
SupportDesk 契約者様向けドキュメント「Linux ユーザズマニュアル」をご覧ください。

[SupportDesk 未契約の場合]
Red Hat 社のドキュメントをご覧ください。

(10) ServerView Operations Manager は、「ServerView Suite」パッケージグループ配下に表示されます

V10.10.10 以降の SVIM では、ServerView Operations Manager は、アプリケーションウィザードの「ServerView Suite」パッケージグループ配下に表示されます。
「Software Packages for JAPAN」パッケージグループ配下には表示されません。
これは、V10.10.10 以降の ServeView Suite に含まれる ServerView Operations Manager が、各国語共通版となり、

「ServerView Suite」パッケージグループ配下のメニューに統合されたためです。

(11) SVIM を使用して WindowsOS をインストールする場合、ボリュームラベル名を入力してください

ボリュームラベルを入力せずに、SVIM で、Windows OS をインストールした場合、インストールに失敗することがあります。
ボリュームラベル名は、必ず入力してください。

(12) Red Hat Enterprise Linux 6 ではファイルシステムは ext3 をご使用ください

Red Hat Enterprise Linux6 のインストールを行う場合、swap 以外のパーティションのファイルシステムタイプは『ext3』を使用することを強く推奨します。
swap 以外のパーティションのファイルシステムタイプを『ext3』に設定するには、ガイドモードを使用して、パーティション作成画面の「ファイルシステムタイプ」選択メニューで『ext3』を選択してください。
なお、クイックモードでは、『ext4』が自動選択されます。『ext3』は設定できません。

(13) Red Hat Enterprise Linux のリモートインストールにおける留意事項

リモートインストール機能を使用して Red Hat Enterprise Linux をインストールする場合は、Linux サーバを FTP/HTTP サーバとすることを推奨します。
Windows サーバを FTP/HTTP サーバとして使用する場合は、以下に注意して操作を行ってください。

① Red Hat Enterprise Linux ディストリビューションディスクを Windows サーバにコピーする際に、ファイル名が 63 文字に切り詰められます。FTP/HTTP サーバ内のファイル名を確認し正しく修正することでこの現象を回避することができます。

図の例では下のようにファイル名が切り詰められます。
FTP/HTTP サーバ内のファイル名
jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i38 (63 文字に切り詰められます)
正しいファイル名
jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i386.rpm

② Red Hat Enterprise Linux6 について
Red Hat Enterprise Linux6 の OS メディアを DVD ドライブに挿入し、下記コマンドを実行してください。

xcopy [DVD ドライブ]:¥ [コピー先ドライブ]:¥[共有フォルダ] /s/e/v/h/i
xcopy [コピー先ドライブ]:¥[共有フォルダ]¥Server¥repodata [コピー先ドライブ]:¥[共有フォルダ]¥repodata /s/e/v/h/i

(14) V10.10.10 以降、RAS 支援サービスのインストールは廃止されました

ServerView Suite V10.10.10 以降、RAS 支援サービスは添付されません。
RAID コントローラの BBU の寿命監視は手動で設定を行ってください。
「ServerView Suite DVD2」に設定手順を記載したマニュアルを格納しております。
Server Books の初期ページのメニューから下記の様に選択してください。
「Software」-「Life Time Management」-「定期交換部品、消耗品の交換予告／交換時期通知」

(15) Red Hat Enterprise Linux ではパスワードにシングルクォーテーションを使用できません

Red Hat Enterprise Linux ではパスワードにシングルクォーテーションを使用できません。
パスワードにシングルクォーテションを含めたい場合は、「root パスワードの暗号化」を選択してください。

(16) Red Hat Enterprise Linux では RAID とディスクの構成において、LVM 区画へのインストールができません

インストール完了後に、手動で LVM 区画を作成するか、インタラクティブモードを使用ください。
インタラクティブモードについては ServerView Suite マニュアルの 7 Linux および VMware ESX の設定とインストールの開始を参照ください。

(17) Red Hat Enterprise Linux では「システムクロックに UTC を使用」のチェックをはずしてください

日本国内でサーバを運用する場合、システムクロックに UTC を使用しません。
OS の設定画面において「システムクロックに UTC を使用」の項目は、チェックをはずしてください。

(18) テープデバイスを接続するときはブートオーダーを低くしてください

テープデバイスを接続する場合は、ブートオーダーがテープデバイスとならないように、BIOS 設定画面（または UEFI 設定画面）で設定してください。またインストール時にはテープカートリッジは外してください。

(19) Windows Server 2008R2 に SP1 を適用するには時間がかかることがあります

Windows Server 2008 R2 をインストールするさい、ServicePack1 をインストールする場合に機種によっては数時間かかることがあります。

(20) Windows Server 2003 R2 をインストールする際のデフォルトパーティションサイズはクイックモードとガイドモードで異なります

デフォルトパーティションサイズは以下です。

Windows Server 2003 R2

クイックモード：RAID 構築を予め指定した場合　32000MB
RAID 構築を SVIM で実施する場合　15360MB
ガイドモード　：RAID 構築を予め指定した場合　32000MB
RAID 構築を SVIM で実施する場合　32000MB

最低パーティションサイズは 15360MB です。

Windows Server 2008 / R2

クイックモード：RAID 構築を予め指定した場合　32000MB
RAID 構築を SVIM で実施する場合　32768MB
ガイドモード　：RAID 構築を予め指定した場合　32768MB
RAID 構築を SVIM で実施する場合　32768MB

最低パーティションサイズはデフォルトサイズです。

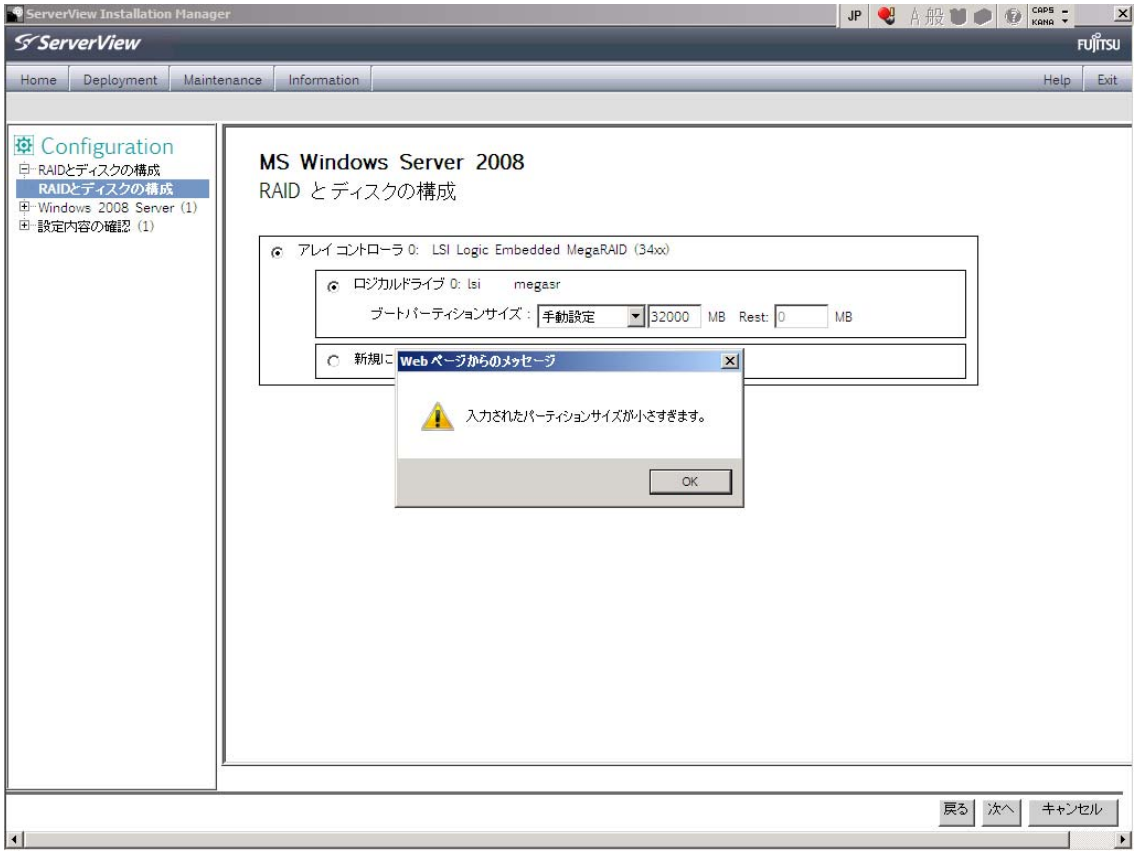
インストール処理時に一時的な作業領域が必要なため、Windows Server 2008 / R2 をインストールするには、32GB の SSD は容量不足となり使用できません。

(21) コンフィグレーションファイル出力先に FDD を指定することができません

コンフィグレーションファイルを出力する先は USB メモリをご使用ください。

(22) Windows Server 2008 / R2 をクイックモードでインストールする際、ディスクと RAID の構成画面で警告メッセージが表示されます

以下に示すメッセージが表示されます。動作には問題ありませんので「OK」をクリックし、操作を続行してください。



(23) Windows インストール時に設定できるディスクパーティション数は最大 4 個です

5 個以上のディスクパーティションを設定するには、RAID と DISK 構成画面では 3 個までとし、OS インストール後に Windows メニューのディスク管理で設定してください。

(24) Windows Server 2008 R2 に SP1 を適用するには Disk 空き領域が 9GB 以上必要です

空き領域が不足する場合は、SVIM での OS インストール処理後に 9GB 以上の空き領域を確保してから、手動で SP1 の適用を行ってください。

(25) 32GB の SSD には Windows Server 2008 / R2 をインストールすることができません

インストール処理時に一時的な作業領域が必要なため、Windows Server 2008 / R2 をインストールするには、32GB の SSD は容量不足となり使用できません。

(26) TX100S1 / TX100S2 / MX130S1 へのインストールについて

以下の作業には FDD または USB メモリが必要になります。

・RAID 設定込みで OS インストールする場合

・Windows Server 2008 x64 / Windows Server 2008 R2 をインストールする場合

(27)ガイドモードにおいてディスクが認識されない場合があります

ガイドモードの「RAID とディスクの構成」画面においてハードディスク未搭載の RAID コントローラが存在する場合、他の SAS コントローラ、FC コントローラに搭載されたディスクが認識されない場合があります。この場合、RAID コントローラに HDD を搭載するか、RAID コントローラを取り外すことで解消できます。

(28)Red Hat Enterprise Linux 6 指定時の[──]の意味

OS の選択画面で Red Hat Enterprise Linux 6 を指定する場合のリストボックス内の[──]は 6.0 を意味します。

(29)テープデバイスを接続するときはブートオーダーを低くしてください

テープデバイスを接続する場合は、ブートオーダーがテープデバイスとならないように、BIOS 設定画面で設定してください。
またインストール時にはテープカートリッジは外してください。

(30)SAS コントローラカード搭載時の留意事項

ガイドモードでは SAS コントローラカード上で新規に RAID を構築することはできません。
RAID 構成でインストールする場合はあらかじめ手動で RAID を構築するか、クイックモードを使用してください。

(31)コントローラ上に複数のディスクが存在する場合の留意事項

Red Hat Enterprise Linux OS をインストールする場合、/boot パーティションを 2 台目以降のディスク上に作成することはできません。

(32)FC カード PG-205/206 を搭載する構成で Windows Server 2003 R2 をインストールする場合は SP2 適用済み(スリップストリーム)媒体を使用してください。

FC カード PG-FC205/206(QLE2560/LE2562)を搭載する構成で Windows Server 2003 R2 をインストールするには、SP2 適用済み(スリップストリーム)媒体以外はインストールすることができません。SP2 適用済み媒体以外を使用する場合は、以下の手順に沿って進めてください。

① FC カードを装置から外す。
② Windows Server 2003 R2 をインストールする。
③ SP2 を適用する。(ガイドモードのアプリケーションウィザード画面で SP2 を追加適用してもよい。)
④ FC カードを装置に搭載する。
⑤ FC カードドライバを以下のドライバサイトからダウンして適用する。
http://www.fmworld.net/cgi-bin/drviasearch/drviaindex.cgi

(33)Red Hat Enterprise Linux OS で HDD の全容量をパーティションに割り当てる方法

Red Hat Enterprise Linux OS で HDD の全容量をパーティションとして割り当てるには「RAID とディスクの構成」画面で残り容量より十分小さい値(たとえば 1MB)をサイズ欄に指定し、「最大容量まで使用」を選択してください。

(34)ボリュームライセンスメディアのプロダクトキーの入力について

- Windows Server 2008 / R2 の場合
  SVIM の設定時にプロダクトキーを入力しないで下さい。
  インストール終了後に、インターネットを経由して Microsoft のライセンス認証サーバに対してライセンス認証(アクティベーション)を行ってください。
  MAK プロダクトキーはこのときに入力します。

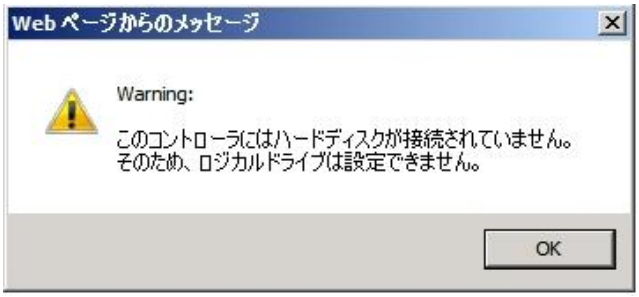
- Windows Server 2003 R2 の場合
  SVIM の設定時にプロダクトキーを入力してください。

(35)ストレージブレードはシャーシから外してインストールしてください。

ストレージブレードに OS をインストールしない場合は、インストール前にストレージブレードをシャーシより外してください。
インストール完了後ストレージブレードを挿入し、ご使用ください。

(36)ハードディスクを接続しない RAID コントローラーが存在する場合に、警告メッセージが表示されることがあります。

RAID とディスクの構成において、ハードディスクが接続されていない RAID コントローラーが存在すると以下のような警告が表示されることがあります。



(37)Red Hat Enterprise Linux 5、かつ、パッケージグループ：仮想化（XEN カーネル環境）をインストールする場合の手順について

Red Hat Enterprise Linux 5、かつ、パッケージグループ：仮想化（XEN カーネル環境）をインストールする場合、以下のように選択してください。（i386 アーキテクチャーでは Xen カーネル環境をサポートしていません。）

- インストールモードの選択
  ① ［ガイドモード］を選択します。

- パッケージ選択手順
  ① ［インストール番号：］を入力します。
  ② ［パッケージグループ：］で［仮想化(1/1)］チェックボックスをオンにします。
  ③ ［Kernel：］で以下のチェックボックスをオンにします。
    - Native Kernel

- ブートローダ手順
  ① ［ブートローダをインストール］チェックボックスをオンにします。
  ② ［ブートカーネルのデフォルトを XEN カーネルに設定］チェックボックスをオンにします。

■ServerView Update Manager Express の留意事項

(1) サポート機種

Update Manager Express は、以下のモデルをサポートしております。

- TX100 S2 / TX150 S7 / TX200 S6 / TX300 S6
- RX100 S6 / RX200 S6 / RX300 S6 / RX600 S5
- BX922 S2 / BX920 S2 / BX960 S1 / BX924 S2 / BX620 S6

(2) マルチパス環境における留意事項

本ソフトウェアを ServerView Suite DVD 起動した環境で使用する場合、マルチパス構成が設定済みの環境での動作をサポートしていません。マルチパス構成が設定済みの環境では、ServerView Suite DVD 起動を行わないでください。
ServerView Suite DVD 起動に使用している Windows PE は、マルチパス構成が設定されているシステムであることを認識できないため、マルチパス構成が設定された 2 つのディスクドライブを同時に認識した場合、システムドライブの一意性を確保する為に、マルチパス構成の片方のディスクドライブ内の ID 情報を更新します。
その結果、既にインストールされているシステムが起動しなくなってしまう可能性があります。
マルチパス接続環境で ServerView Suite DVD 起動を行う場合は、事前にFCパスを切断してください。FCパス切断の詳細な手順につきましては、FCカード等のマルチパス環境をサポートしたデバイスの取扱説明書を参照願います。
ServerView Suite DVD 起動した環境ではなく、Windows / Linux システム上で本ソフトウェアを実行する場合には、マルチパス構成が設定済みの場合でも動作することが可能です。

(3) Red Hat Enterprise Linux6

本 DVD に格納されている Update Manager Express は、Red Hat Enterprise Linux 6 環境で使用することはできません。

(4) Red Hat Enterprise Linux5 において起動時にエラーメッセージが表示される場合があります

ServerView Agent V5.10-14 以降 をご使用の場合、Update Manager Express を実行した時に、以下のエラーメッセージがメッセージボックスに表示される場合があります。

「ハードウェア情報の読み取りが失敗しました。情報がありません」

SVS Update DVD 10.11.07 以降に収録されている UME(V5.10.43 以降)をダウンロード してご使用ください。

①以下の弊社 URL より該当の機種を選択し、Readme ファイルをダウンロードしてください。

http://www.fmworld.net/cgi-bin/drviasearch/drviaindex.cgi

※次の項目のみ選択あるいは入力し"検索開始"ボタンを押下してください。

・製品名:〔ご利用の機種を選択〕

・型名:〔ご利用機種の型名を選択〕

・添付ソフト/ドライバ名称:〔Update DVD と入力〕

②Readme ファイルに記載されている URL より、SVS Update DVD のイメージをダウンロードしてください。

(5) ServerView Suite DVD 起動を行なう場合、SVS V10.10.09 以降をご使用ください。

V10.10.08 以前の SVS DVD で起動した場合、LAN と SCSI コントローラのファームウェアのアップデートができません。SVS V10.10.09 以降を使用するか、Windows/Linux システムから Update Manage Express を実行してください。

■ ServerView Deployment Manager (SVDM) の留意事項

(1) 制限機能

「デプロイメント構成」の以下の機能は、ご使用になれません。

①[基本設定] 画面

- DNS サフィックス (※ リモートインストールのみご使用になれません(製品仕様)。クローニングでは機能します。)

②[LAN ポート] 画面

- この接続の DNS サフィックス
- この接続の DNS サフィックスを DNS 登録に使う

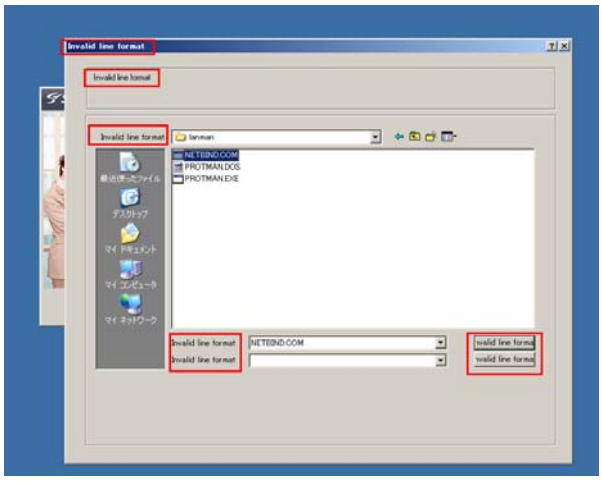
③[DNS 検索サフィックス] 画面

- DNS 検索サフィックス

(2) LAN マネージャー インストール時の異常

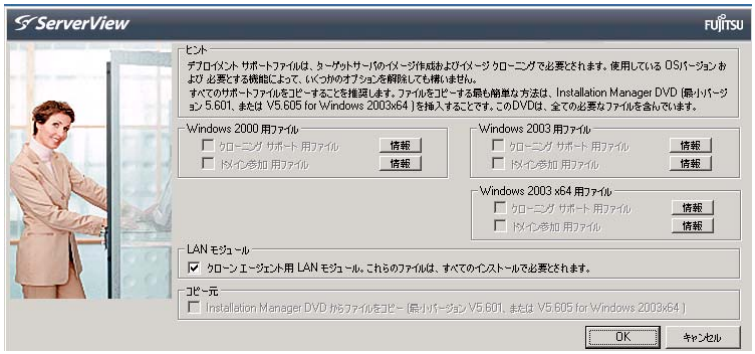
Deployment Manager のインストールパッケージを CD/DVD メディアに書き込み、そのメディアをサーバの DVD-ROM ドライブへセットしてからインストールすると、インストール途中の DVD 入れ替え作業を適切に行わなかった場合に、Deployment Manager のインストール最後の LAN マネージャのインストール段階で、画面上のメッセージが「Invalid Line Format」と表示される、またはインストーラが異常終了することがあります。なお、ServerView Suite DVD から Deployment Manager をインストールした場合は、DVD メディアの入れ替え作業が発生しませんので、本現象は発生しません。

[Windows 2003]



（画面①）

[Windows 2008]
以下の画面で[OK]をクリックした後に、インストーラが突然終了します。また Windows イベントログに、下記エラーが記録されます。



（画面②）

ログの名前: Application
ソース: Application Error
イベント ID: 1005
レベル: エラー
説明:
次のいずれかの理由によりファイル にアクセスできません: ネットワーク接続、このファイルの保存先ディスク、またはこのコンピューターにインストールされている記憶域 ドライバーに問題があります。または、ディスクが見つかりません。 このエラーによりプログラム RDSetup.exe は終了しました。
プログラム: RDSetup.exe

【原因】
DVD メディアが入れ替えられたことで、インストーラが参照しようとしたリソースファイルが存在しない状態になったため。

【発生条件】
- Deployment Manager 5.40

【回避方法】
① Deployment Managerをインストールする際は、ServerView Suite DVD1 から直接インストールするか、またはインストールパッケージを HDD 上にコピーしてから行うことを推奨します。
② Deployment Managerインストールパッケージを書き込んだCD/DVDメディアからインストールする場合は、画面②で[OK]ボタンをクリックして LAN マネージャのインストールを開始する前に、Deployment Manager インストールパッケージが格納されていた元の CD/DVD メディアへ戻してください。

【現象発生後の対処】
RDSetup.exe を再度実行し、「デプロイメントサポートファイルのコピー」を行うことで、LAN マネージャのインストールを再度行

うか、手動で LAN マネージャをインストールしてください。

(3) その他留意事項について

ServerView Deployment Manager の Readme.htm に、本資料に記載されていない制限、留意事項が記載されておりますので、ご使用になる前にそちらもご確認ください。

(4) ライセンスおよび製品サポートについて

Deployment Manager をご使用になるにはライセンス購入が必要です。リモート OS セットアップ、クローンセットアップを行いたいターゲットサーバ数(クライアント数)のライセンスを用意してください。デプロイメントサーバ自身には、ライセンス購入は必要ありません。

- ライセンスは有償です。1 ターゲットサーバ毎に 1 ライセンスが必要です。
- ServerView Deployment Manager では有償サポートメニューをご用意しています。万が一のトラブル対応等につきましては、SupportDesk 契約が必要となります。ライセンス購入されても、本製品に対するサポート契約を締結されていない場合は、QA 対応やトラブル対応を実施することができません(有償サポート契約がある場合のみ対応可能)。本製品はその性格上、システム構築時より利用するケースが多いため、システム構築時よりサポート契約を締結頂くことを推奨いたします。

(5) トラブル時のログ収集

サポート契約されたお客様で、製品をご使用中のトラブルについて調査を依頼される場合、製品に標準添付されているログ収集ツールでログを採取した上でお問い合わせお願いします。なお、ログ収集ツールは、ご使用になっているバージョンのインストールパッケージに格納されている版数を使用してください。

- (製品インストールパッケージのルートフォルダ)¥diag¥GetRdDiag.vbs 、または
- (Deployment Manager インストール先)¥diag¥GetRdDiag.vbs (※V5.40 以降のみ)

(6) ご使用になれない環境

SystemcastWizard Professional、ServerView Resource Coordinator VE をご使用になられている環境では、本ソフトウェアはご使用になれません。

(7) サポート機種

ServerView Deployment Manager V5.40 は、以下のモデルをサポートしております。(2010 年 12 月時点)

- TX100 S2 / TX150 S7 / TX200 S6 / TX300S6
- RX100 S6 / RX200S6 / RX300S6 / RX600S5
- (BX900 シャーシ) BX922 S2 / BX920 S2 / BX924 S2 / BX960 S1
- (BX400 シャーシ) BX922 S2 / BX920 S2 / BX924 S2
- (BX600 シャーシ) BX620 S6

(8) サポート OS

ServerView Deployment Manager V5.40 のサポート OS は、製品マニュアルを参照してください。
なお、Linux は全ての機能(クラッシュリカバリ、クローニング、リモートインストール)が、
Red Hat Enterprise Linux 5.5 までサポートしております。

(9) マルチパス環境における留意事項

本ソフトウェアは、マルチパス構成が設定済みの環境に対するバックアップ、リストアなどの一切の動作をサポートしておりません。マルチパス構成が設定済みの構成に対するクローニング、リモートインストール、クラッシュ リカバリは行わないでください。
本ソフトウェアがターゲットサーバの起動に使用する Windows PE は、マルチパス構成が設定されているシステムであることを認識できないため、マルチパス構成が設定された 2 つのディスクドライブを同時に認識した場合、システムドライブの一意性を確保する為に、マルチパス構成の片方のディスクドライブ内の ID 情報を更新します。
その結果、既にインストールされているシステムが起動しなくなってしまう可能性があります。

マルチパス接続環境に対してバックアップ、リストアなどの本ソフトウェアの機能を使用する場合、事前にFCパスを切断してください。FCパス切断の詳細な手順につきましては、FCカード等のマルチパス環境をサポートしたデバイスの取扱説明書を参照願います。

(10) マニュアルの正誤表

Deployment Manager V5.40 (2010年10月版)のマニュアル内に、複数の誤った記載が存在します。以下に一覧で示しておりますので、ご使用になる前に必ず確認してください。

章	page	誤	正
2.3 リモートインストール	32	サポートされるターゲットサーバの最大数は基本的に制限されますが、使用するネットワークトポロジの帯域幅に影響されます。	サポートされるターゲットサーバの最大数は基本的に制限されませんが、使用するネットワークトポロジの帯域幅に影響されます。
3.2.1.1 Deployment Manager パッケージのインストール	67	ReadMe.htm ファイルの「リモートサーバ上の ServerView Operations Manager との連携」の項を参照してください。	ReadMe.htm ファイルの「リモートサーバでの ServerView Operations Manager のインストール」の項を参照してください。
3.2.1.1 Deployment Manager パッケージのインストール	67	Deployment Manager をインストールした後に ServerView Operations Manager の場所を変更する場合は、ReadMe.htm ファイルの「ServerView Operations Manager の場所の変更」の項に記載される手順に従ってください。	Deployment Manager をインストールした後に ServerView Operations Manager の場所を変更する場合は、ReadMe.htm ファイルの「ServerView Operations Manager Location」の変更」の項に記載される手順に従ってください。
4.4.3.2 情報(タブ)	88 89	サーバの IP アドレス。	サーバの MAC アドレス。
4.6.1.4 「リモートマネージメントポート」ステップ(「デプロイメント構成」ウィザード) 4.7.1.4 「リモートマネージメントポート」ステップ(「新規サーバ」ウィザード)	110 111 123 124	Bootstrap Protocol サーバへブロードキャスト	Bootstrap Protocol サーバへ送信
6.1.1.6 「スケジュール」ステップ(「クローンイメージの作成」ウィザード) 6.3.1.7 「スケジュール」ステップ(「クローンイメージのリストア」ウィザード) 6.3.2.8 「スケジュール」ステップ(「クローンイメージのリストア」ウィザード) 7.2.1.5 「スケジュール」ステップ(「インストールの実行」ウィザード)	156 182 183 198 224 236 248 249	Time Unit to perform this Task(「日時指定」オプションの場合のみ)	タスク更新スケジュール (「実行時刻設定」オプションの場合のみ)
		タスクを実行する頻度を、「1 回」、「毎日」、「毎週」、「毎月」のいずれかに指定します。	タスクを実行する頻度を、「1 度だけ実行」、「日単位で指定」、「週単位で指定」、「月単位で指定」のいずれかに指定します。
		開始日時(「日時指定」オプションの場合のみ)	開始日時選択(「実行時刻設定」オプションの場合のみ)
		タスクを実行する開始日を指定します(「直ちに開始する」または「日時指定」) 。「日時指定」を選択した場合、タスクの開始時間も指定できます。	タスクを実行する開始日を指定します(「直ちに実行」または「実行時刻指定」) 。「実行時刻指定」を選択した場合、タスクの開始時間も指定できます。
		Perform this Task(Time Unit to perform this Task が「毎日」の場合のみ)	実行間隔を日数で指定してください(タスク更新スケジュールが「日単位で指定」の場合のみ)

8.1.1.6「スケジュール」ステップ(「スナップショットイメージの作成」ウィザード) 8.2.1.8「スケジュール」ステップ(「スナップショットイメージのリストア」ウィザード)		タスクを実行する頻度を、「Weekday」、「日」、「x 日毎」から選択します。	タスクを実行する頻度を、「Weekday」、「毎日」、「x 日毎」から選択します。
		Select days of the week you want this task to start(「毎週」の場合のみ)	タスク実行日設定(「週単位で指定」の場合のみ)
		タスク実行日設定(「毎月」の場合のみ)	実行する日付、曜日、月を指定してください (「月単位で指定」の場合のみ)

■ServerView Virtual-IO Manager(VIOM)の留意事項

(1) ライセンスおよび製品サポートについて

Virtual-IO Manager をご使用になるにはライセンス購入が必要です。管理対象のサーバ数のライセンスを用意してください。

・ライセンスは有償です。1 ターゲットサーバブレード毎に 1 ライセンスが必要です。
・Virtual-IO Manager では有償サポートメニューをご用意しています。万が一のトラブル対応等につきましては、SupportDesk 契約が必要となります。ライセンス購入されても、本製品に対するサポート契約を締結されていない場合は、QA 対応やトラブル対応を実施することができません(有償サポート契約がある場合のみ対応可能)。本製品はその性格上、システム構築時より利用するケースが多いため、システム構築時よりサポート契約を締結頂くことを推奨いたします。
・従来のライセンス製品(PG-SVVM01)を VIOM V2.4 以降で使用することができます。1 ライセンス当たり、18 サーバライセンスとして計上されます。

(2) 64 ビット Java について

Virtual-IO Manager は 64 ビット Java では動作しません。32 ビット Java をインストールの上、32 ビット Internet Explorer をご使用ください。

(3) インストール時の MAC アドレスおよび WWN の範囲選択画面について

入力した MAC アドレスおよび WWN につきまして、妥当性のチェックは行いません。正しいアドレスを入力したことをよくご確認の上、次の画面に進んでください。

(4) インストール後の Java キャッシュクリア

Virtual-IO Manager をインストールした後、Virtual-IO Manager の画面を起動する前に、必ず Java のキャッシュデータ(一時ファイル)を消去してください。コントロールパネルから Java を起動して、基本タブのインターネット一時ファイルの[設定...]ボタンから実施できます。

(5) ヘルプメニューについて

・ヘルプボタンをクリックしたとき、ヘルプウィンドウは Virtual-IO Manager ウィンドウの後ろに表示されます。タスクバーでヘルプウィンドウをクリックして参照してください。
・Operations Manager V5.01.02 未満を使用している場合、メニューバーのヘルプから VIOM のバージョン情報を正しく表示できません。バージョン情報は Release Notes で確認してください。

(6) ServerView Virtual-IO Manager V2.4 のサポート状況およびサポート前提要件

Virtual-IO Manager V2.4(VIOM V2.4)のサポート状況およびサポート前提要件について記載します。なお、未サポートのハードウェアにつきましては、新バージョンの VIOM でサポートしている可能性がありますので、新バージョンのサポート状況も合わせてご確認ください。

ハードウェア	サポート可否	BIOS / ファームウェア	管理番号※1
BX600 Sx シャーシ / BX600 ブレード全モデル	×※2	――	――
BX900 S1 シャーシ	○	MMB Firmware 4.31 以降※3	PGY0257
BX400 S1 シャーシ	○	全バージョン	――
BX920 S1	○	BIOS 3B39 / iRMC Firmware 4.84G 以降	PGY0185

BX922 S2	○	全バージョン	――
BX920 S2	○	全バージョン	――
BX924 S2	○	全バージョン	――
BX960 S1	×	――	――
スイッチブレード（1Gbps 36/12）	○	2.10 以降	PGY0215
スイッチブレード（1Gbps 36/8+2）	○※4	2.10 以降	PGY0215
スイッチブレード（1Gbps 18/6）	○	全バージョン	――
スイッチブレード（10Gbps 18/8）	○	V01.10 NY0068 以降	PGY0218
LAN パススルーブレード（10Gbps 18/18）	×	――	――
ファイバーチャネルスイッチブレード（8Gbps 18/8）	○	全バージョン	――
ファイバーチャネルパススルーブレード（8Gbps 18/18）	○	全バージョン	――
LAN 拡張ボード（1Gbps）	○	全バージョン	――
LAN 拡張ボード（10Gbps）	○※5	全バージョン	――
ファイバーチャネル拡張ボード（8Gbps）	○	全バージョン	――
コンバージド・ネットワーク・アダプタ拡張ボード	×	――	――

※1）管理番号は下記 BIOS / ファームウェア一覧ページの管理番号になります。
http://primeserver.fujitsu.com/primergy/bios/
※2）BX600 Sx シャーシ / BX600 ブレード全モデルのサポート予定はありません。
※3）搭載ハードウェアによっては、より新しい MMB Firmware が必要になる場合があります。搭載ハードウェアの要件を必ずご確認ください。
※4）スタッキング構成のスイッチブレード（1Gbps 36/8+2）につきましては未サポートです。
※5）LAN 拡張ボード（10Gbps）を搭載した BX920 S1、BX920 S2 につきましては未サポートです。BX922 S2 は BIOS 3C56 / iRMC Firmware 4.98G 以降（管理番号: PGY0251）を適用する必要があります。

(7) Server View Virtual-IO Manager のアップデート手順

VIOM V2.1 および V2.2 から、V2.4 にアップデートするときには以下の手順でアップデートを実施してください。

1) VIOM V2.1 を使用している場合は VIOM V2.2 にアップデートします。
2) SVOM を V5 にアップデートします。
3) VIOM を V2.4 にアップデートします。

(8) マニュアル、リリースノートについて

・ インストーラが格納されているフォルダに日本語版のリリースノート（ReadMe_ja.htm）が格納されています。
・ リリースノートの「1.2 納品」に記載されている ServerView Software CD および SV Virtual-IO Manager シングルライセンスの注文番号は海外における注文番号です。日本国内での注文番号につきましては、システム構成図をご参照ください。

(9) ストレージブレード SX960 S1 をご使用の場合

ストレージブレード SX960 S1 をご使用の場合、Operations Manager V5.01.02 以降を使用してください。

(10) FC（ファイバーチャネル）ブート使用時の留意事項

VIOM V2.4 を使って FC ブートを設定したサーバブレードの POST 実行時、【F12】キーを押した場合に FC ブートが無効になる場合があります。FC ブートが無効になった場合は、BIOS セットアップの下記項目を「Enabled」に設定することにより、対処してください。

Advanced / Peripheral Configuration / Mezz. Card x : Fibre Channel Remote Boot [Enabled]

■リモートマネジメントコントローラ（iRMC）の留意事項

(1) ビデオリダイレクション、およびリモートストレージ使用時のブラウザ設定

iRMC WebUI より ビデオリダイレクション、およびリモートストレージ機能を使用する場合は、プロキシ経由で接続することができません。ブラウザの設定で、iRMC WebUI への接続はプロキシを使用しないように設定してください。

■ServerView RAID Manager の留意事項

(1) アレイ構成の管理

アレイ構成を使用する場合は、ServerView RAID Manager をインストールしアレイの監視を行ってください。

(2) MegaRAID SCSI 320-2(PG-142E3)および MegaRAID SCSI 320-2E ROMB を VMware でご使用の場合

アレイコントローラとして MegaRAID SCSI 320-2(PG-142E3)および MegaRAID SCSI 320-2E ROMB を搭載し、かつ VMware をご使用の環境の場合、ServerView RAID Manager for VMware は V4.2.08 までしかサポートしておりません。
「アレイコントローラ ドキュメント＆ツールCD for VMware V1.5L10」同梱の ServerView RAID Manager for VMware V4.2.08 をダウンロードしてお使い下さい。
http://www.fmworld.net/cgi-bin/drviasearch/drviaindex.cgi

(3) セキュリティ証明書について

ServerVIew RAID Manager が使用するセキュリティ証明書の暗号強度が上がったため、画面を表示する側の OS および Web ブラウザについても対応が必要になります。

・hotfix の適用について
Windows XP, Windows Server 2003 をご使用の場合は hotfix KB968730 を適用してください。
http://support.microsoft.com/kb/968730/

(4) オンラインヘルプが正しく表示されない場合

オンラインヘルプが正しく表示されない場合は、WEB ブラウザのエンコード選択を「自動」に設定してください。
例)Internet Explorer 8 の場合
メニューバー「表示」→「エンコード」→「自動」

(5) サーバ名について

サーバのコンピュータ名に標準以外の文字を使用している場合、インストールしたサーバから ServerView RAID Manager の WEB 画面が正常に起動しないことがあります。この場合は、以下のようにアドレスバーを コンピュータ名(デフォルト)から IP アドレスに書き換えてからご使用ください。 ※標準文字とは A-Z,a-z,0-9,-(ハイフン) です。
https://<コンピュータ名>:3173/ → https://<IP アドレス>:3173/

(6) アクセス制限用グループ

アクセス制限を行うための 'raid-adm' グループ、および 'raid-usr' グループは自動で作成されません。アクセス制限を行う場合には必要に応じてグループを作成してください。

(7) スケジューラ

HDD チェックスケジューラおよびバッテリリキャブリレーションスケジューラと同様の機能が、ServerView RAID Manager V4.3.6 以降の タスクスケジュール機能としてサポートしています。
運用に応じて、いずれか一方の機能をお使いください。
ServerView RAID Manager V4.2.8 以前から V4.3.6 以降にバージョンアップ後に ServerView RAID Manager のタスクスケジュール機能を使用する場合、以前の HDD チェックスケジューラおよびバッテリリキャリブレーションスケジューラのスケジュール設定は引き継がれませんので、ServerView RAID Manager の Web 画面でタスクの設定を行ってください。
特に、ServerView RAID Manager V4.0.4 以前から V4.3.6 以降にバージョンアップした場合、インストールパスの変更に伴い V4.0.4 以前で使用していた HDD チェックスケジューラおよびバッテリリキャリブレーションスケジューラは動作しなくなるため、必ず ServerView RAID Manager でタスク設定を行ってください。

(8) 仮想 OS へのインストール

Hyper-V、VMware および Xen の仮想マシン上の OS への本ソフトウェアのインストールは未サポートとなります。

(9) VMware vSphere 4.1 で使用する場合

VMware vSphere 4.1 (VMware ESX 4.1) でServerView RAID Managerを使用する場合、vSphere Clientを使用してServerView RAID Manager の管理者・ユーザーグループに対して管理者ロールを割り当ててください。これを行わない場合、ServerView RAID Manager 画面に管理者・ユーザーグループに所属するユーザーでログインすることができません。
マニュアル(manual.pdf)に記載のある /etc/security/access.conf を編集する方法はサポート対象外となるため使用しないでください。

(10) Red Hat Enterprise Linux 6 環境での留意事項

Red Hat Enterprise Linux6 上で ServerView RAID Manager を使用する場合は、次の点にご注意ください。

・パッケージについて

ServerView RAID Manager の動作のためには、32 ビット版の次のパッケージが必要です。

openssl, compat-libstdc++-33, pam

Red Hat Enterprise Linux 6(Intel64)環境で使用する場合は、別途 32 ビット版の上述のパッケージをインストールしてください。

・ServerView RAID Manager へのアクセス

ServerView RAID Manager画面にアクセスする場合は、インストールしたサーバのローカルのWebブラウザではなく、Red Hat Enterprise Linux 6 ではない別端末を用意して外部からアクセスしてください。

(11) VMware ESXi 4.1 環境での監視対象 RAID コントローラについて

VMware ESXi 4.1 上では、次の SAS コントローラ/SAS アレイコントローラの監視は未サポートです。

PRIMERGY オンボードアレイコントローラ (Integrated Mirroring SAS)
PRIMERGY 標準搭載 SAS アレイコントローラカード (Integrated Mirroring SAS)
SAS コントローラカード PG-254B/PGB254B (Integrated Mirroring SAS)
SAS カード PG-228B / PGB228B / PG-228BL / PGB228BL (LSI SAS 3442E-R (1068E))

(12) VMware ESXi 4.1 環境での RAID 監視について

ServerView RAID Manager を用いて VMware ESXi サーバ上の RAID 監視を行う場合、VMware ESXi サーバ上に ServerView RAID Manager をインストールすることはできません。VMware ESXi サーバとは別の監視用端末を用意し、その端末に ServerView RAID Manager をインストールした上で、設定を行ってください。

(13) VMware ESXi 4.1 環境での RAID 監視における SNMP Trap について

VMware ESXi サーバを監視する場合、ServerView RAID Manager が発行する SNMP Trap は、ESXi サーバを監視する ServerView RAID Manager をインストールしたサーバを発行元として発行されます。

■PrimeCollect の留意事項

(1) マルチパス環境における留意事項

本ソフトウェアを ServerView Suite DVD から起動する場合、マルチパス構成が設定済みの環境での動作をサポートしていません。
マルチパス構成が設定済みの環境では、ServerView Suite DVD 起動を行わないでください。
本ソフトウェアの起動に使用している Windows PE は、マルチパス構成が設定されているシステムであることを認識できないため、マルチパス構成が設定された 2 つのディスクドライブを同時に認識した場合、システムドライブの一意性を確保する為に、マルチパス構成の片方のディスクドライブ内の ID 情報を更新してしまいます。
その結果、マルチパス構成が崩されるため、既にインストールされているシステムが起動しなくなってしまう可能性があります。
マルチパス接続環境で ServerView Suite DVD 起動を行い、本ソフトウェアを実行する場合は、事前に FC パスを切断してください。FCパス切断の詳細な手順につきましては、FC カード等のマルチパス環境をサポートしたデバイスの取扱説明書を参照願います。
ServerView Suite DVD から起動するのではなく、ServerView Agents と共にインストールされた本ソフトウェアを

OS 上で実行する場合には、マルチパス構成が設定済みの場合でも動作することが可能です。

■Scripting Toolkit の留意事項

(1) 本ソフトウェアのサポートについて

本ソフトウェアについて、現在未サポートとなっておりますのでご了承ください。

■著作権および商標

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。
Copyright FUJITSU LIMITED 2011

以上